

システム開発を成功させるために

要件定義の手順と手法を理解する

ITが担う役割の拡大にともない、ITシステムに求められる要求・要件の多様化、システム開発の短納期化が進んでいます。ITシステム開発の難易度もますます高まっており、工数増による採算悪化や、品質低下・納期遅れによる顧客からの信頼の失墜につながるリスクも拡大しています。これらのリスクを回避するためには、上流工程である要件定義工程を正しく実施することが重要です。

重要性が増す要件定義

ITシステムは、企業の基幹システムのような情報を記録するタイプのシステム「SoR (System of Record)」から、さまざまなデバイスやサービスとの関係を構築するタイプのシステム「SoE (System of Engagement)」に広がっています。このようなITを取り巻く環境の変化を受けて、システム開発では、今まで経験のない領域の業務についてシステム化を検討したり、今まで関わってこなかったステークホルダーとシステム仕様を検討したり、ビッグデータ、AI、モバイルなどの最新技術の適用を検討したりするなど、上流工程の重要度がますます高まっています。

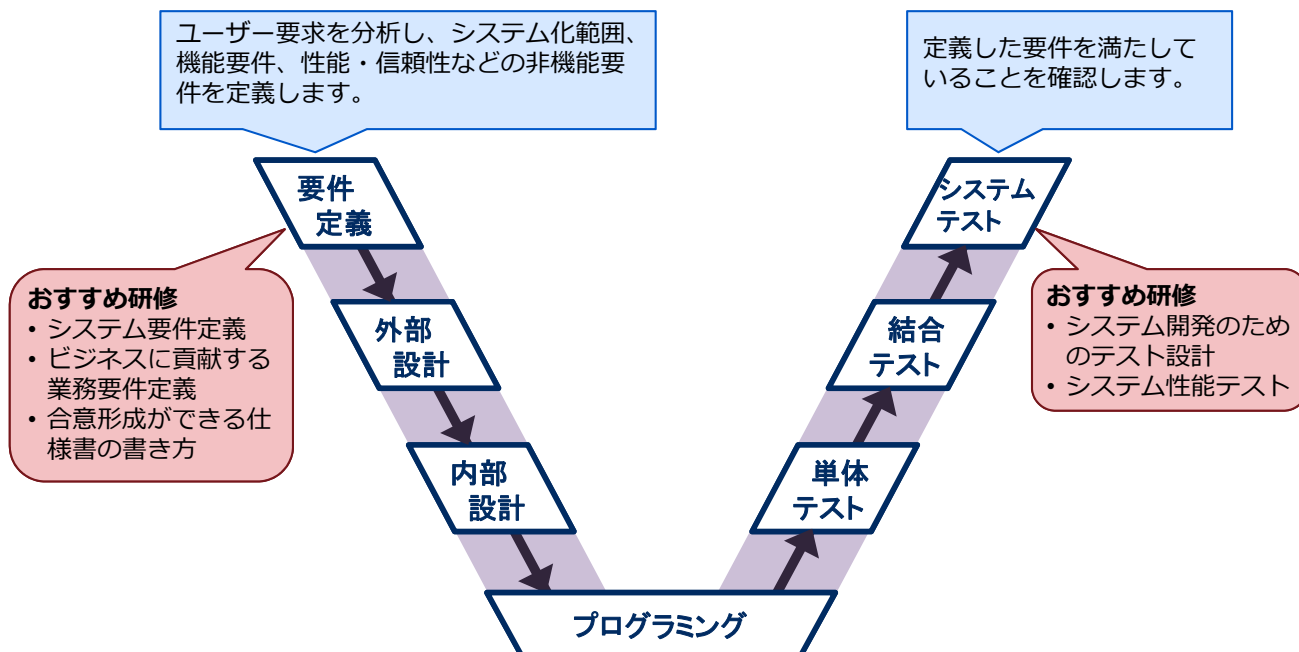
上流工程のミスは下流工程での手戻りの大幅増にもつながります。このミスの発生を減らすためには、**早期に業務要件やシステム要件を引き出し、体系的に整理し、関係者と合意すること**が大切です。

本特集では、要件定義をはじめとした、上流工程の基礎スキルを修得する方におすすめの研修をご紹介します。

システム開発プロセスと要件定義関連研修

システム開発プロセスと、要件定義に関わるおすすめの研修は次の通りです。

要求分析、機能要件定義、非機能要件定義を学ぶ研修に加え、定義した要件を満たしていることを確認するテスト関連の研修もご提供しています。



要件定義関連研修の特長

1. 要件定義で失敗しやすいポイントとその対策を学ぶ

要件定義が失敗する要因として、要件定義書の内容について合意形成できていないことだけでなく、ユーザーの業務を理解できていない、ユーザーの要求が確定していない、など、多様なものがあります。要件定義がうまくいかなかった主な要因とその対応策を次に示します。

	要件定義が難しい原因	主な対応策	関連研修
1	顧客が提示した要求のみで要件をまとめている。	潜在的なユーザー要求を引き出し、要件定義における検討漏れを減らす。	・ビジネスを成功に導く業務要件定義
2	相反するユーザー要求に全て応えようとしている。	経営者、部門長、利用者など、さまざまなユーザー要求を体系的に整理し、要求内容の漏れや矛盾を明らかにする。	
3	費用や期間、業務ルールなどにより実現できない要求を要件としている。	システム開発における制約や前提条件を把握し、要求事項の優先順位を定義し、要件として整理する。	
4	必要な業務や機能の検討が十分できていない。	要求分析結果を元に、業務としてやるべきことやシステム化対象機能を体系的に整理する。	・ビジネスを成功に導く業務要件定義 ・システム要件定義
5	業務や機能の実施順序のみ検討し、必要な情報の検討が漏れている。	機能の実施順序に加え、機能間の情報の受渡しから、漏れや矛盾のない機能や情報を抽出する。	
6	業務主管やシステム主管、設計担当者のそれぞれが理解できる業務フローを記述できない。	システム化対象業務／対象外がわかるとともに、システム化対象業務についてはオンラインとバッチが区別できる業務フローを記述する。	・ビジネスを成功に導く業務要件定義 ・システム要件定義 ・合意形成ができる仕様書の書き方
7	検討すべき非機能要件を抽出できず、また、曖昧な定義になっている。	非機能要求グレードを元に、非機能要件に関する検討漏れや曖昧さを無くす。	・システム要件定義

要件定義関連研修では、要件定義で失敗しやすいポイントとその対策を講義とグループ演習を通して学んでいただきます。

2. 実践的なケーススタディを用いた疑似体験により理解度アップ

ケーススタディを用いたグループ演習を実施し、要件定義工程を疑似体験します。

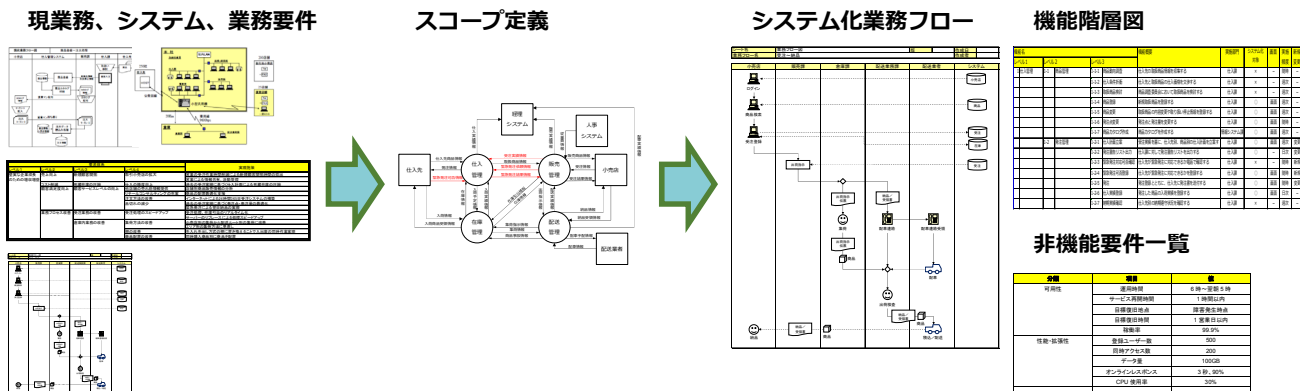
【ビジネスを成功に導く業務要件定義】

現業務やシステムに関する資料、およびシステムに対する要望を記載した資料を基に、顧客へのヒアリングを実施し、要求を引き出します。そして、要求を構造化して整理し、過不足の無い要求事項と実現施策を洗い出します。さらに、新業務フローを作成します。



【システム要件定義】

現業務やシステムに関する資料、および業務要件定義の結果を基に、システム化対象範囲（スコープ）を定義し、システム化業務フローやシステム化対象機能、および非機能要件を定義します。これによって、開発の規模や期間、および費用の見積もりが可能となります。



3. 実績豊富なカリキュラム（育成担当者様向け）

NECグループのSE要員育成など、年間500名様以上（2016年度実績）に活用いただいている実績豊富なカリキュラムです。カスタムメイド研修では、自社の開発標準や成果物を利用するなど、個別にカスタマイズしたカリキュラムでも実施しています。ぜひお問い合わせください。

■ 主なカスタムメイド研修の実績

お客様	研修概要
金融業情報システム会社 A社様	ねらい 受講対象者 研修期間 研修範囲 特長 ：若手SE要員の上流工程スキル強化／底上げ ：若手社員 約300名 ：2日間 ：機能要件定義、非機能要件定義 ：同社開発標準のプロセス・成果物にあわせたカスタマイズ
通信業 B社様	ねらい 受講対象者 研修期間 研修範囲 特長 ：同社情報システム部門のスキル高度化 ：情報システム部門 約200名 ：2日間 ：機能要件定義 ：同社開発標準の解説を追加実施 さらに同社開発標準対応のビジネスモデリング研修を開発
金融業 C社様	ねらい 受講対象者 研修期間 研修範囲 特長 ：同社の業務主管部門とシステム企画部門のスキル強化 ：同社の業務主管部門とシステム企画部門 約40名 ：2日間 ：要求分析、機能要件定義、非機能要件定義 ：ケーススタディの事前配布／事前学習により研修期間を短縮
製造業情報システム会社 D社様	ねらい 受講対象者 研修期間 研修範囲 特長 ：提案力強化 ：ソリューション営業職 約20名 ：1日間 ：要求分析、提案 ：顧客要求を引き出し、顧客ニーズにあった提案をする演習を組み込み
製造業情報システム会社 E社様	ねらい 受講対象者 研修期間 研修範囲 特長 ：全体最適を実現するための上流工程のスキル修得 ：SE職 約300名 ：2日間 ：業務フロー／システムフロー作成、全体最適化のためのレビュー観点の修得 ：同社開発標準と弊社ケーススタディを融合した実践型研修

コース一覧

	コースコード	コース名	講習日数	受講料(税込)
要件定義	SD378	ビジネスに貢献する業務要件定義	2日間	86,400円
	1.業務要件定義の概要 2.現状の把握 3.要求と制約の調査 4.業務要件の整理 5.業務要件定義書のレビュー			
	SD384	システム要件定義	2日間	86,400円
	1.システム要件定義の概要 2.現状の把握 3.機能要件定義 4.演習:機能要件定義 5.非機能要件定義 6.演習:非機能要件定義 7.システム要件定義書作成			
テスト	SD320	合意形成ができる仕様書の書き方	2日間	86,400円
	1.発注者と開発者の両者が合意できる仕様書とは 2.機能設計・レビューのコツ 3.画面設計・レビューのコツ 4.データモデル設計・レビューのコツ			
テスト	SD060	システム開発のためのテスト設計	2日間	86,400円
	1.システム開発とテスト 2.テスト計画 3.演習1:テスト計画書作成 4.単体テスト設計 5.結合テスト設計 6.演習2:結合テスト設計 7.システムテスト設計 8.演習3:システムテスト設計			
	SD058	システム性能テスト	1日間	45,360円
1.システムライフサイクルにおける性能テストの位置づけ 2.性能と測定技術 3.非機能要件と性能の関係 4.負荷テストの考え方 5.検証結果の確認と対処				

掲載コースの詳細情報はこちら <https://www.neclearning.jp/>

「キーワード/コースコードを入力」欄にコースコードを入力すると、コースの詳細やスケジュールの最新情報をすばやく確認することができます。

お問い合わせは、下記へ

人材開発サービス事業部 研修申込センター

URL: <https://www.neclearning.jp/> E-mail: contact@learning.jp.nec.com

TEL: 03(4330)7560 FAX: 03(4330)7550

- 本資料に記載されている社名またはシステム・製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。
- 本資料では、TMやRは明記しておりません。

